

担い手への農地の集積・集約

- ・農地利用最適化交付金
- ・農地中間管理機構による集積・集約活動

令和4年11月8日（火）

内閣官房行政改革推進本部事務局

説明資料

本年の秋のレビューの方針

E B P Mの手法を各府省庁に幅広く普及させていく「起点」としての議論を行う

- E B P Mの手法を全事業（5,000事業）に波及させ、**底上げを図る**ことを目指す
- 個別事業の要否ではなく、E B P Mの手法の実践に向けた**改善策を中心に議論**を行う

セッション1（個別事業）

- **全事業でのE B P Mの手法の実践**に向けて、原則各省1テーマずつ選定
- **政策の効果の向上や、柔軟な見直しに資する方策を中心に議論**
 - ・ ロジックの確認
 - ・ 初期・最終アウトカム（成果目標・指標）の的確な設定
 - ・ 効果測定方法の改善などの論点を設定

セッション2（今後の行政事業レビューの改善について）

- 11月10日（木） 14：15～15：45
- セッション1の議論等を踏まえ、**行政事業レビューをE B P Mの実践に繋げていくための具体的方策**について議論

担い手への農地の集積・集約

- 農業の成長産業化や所得の増大を進めていくためには、生産基盤である農地について、持続性をもって最大限利用されるようにしていく必要。
- このため、農林水産省は、以下の事業等を通じ、農地中間管理機構（農地バンク）を活用しながら担い手への農地集積・集約化を推進。
- しかし、令和5年度までに全農地の8割を担い手に集積するとの目標に対し、令和3年度の農地集積率は6割。

①農地利用最適化交付金

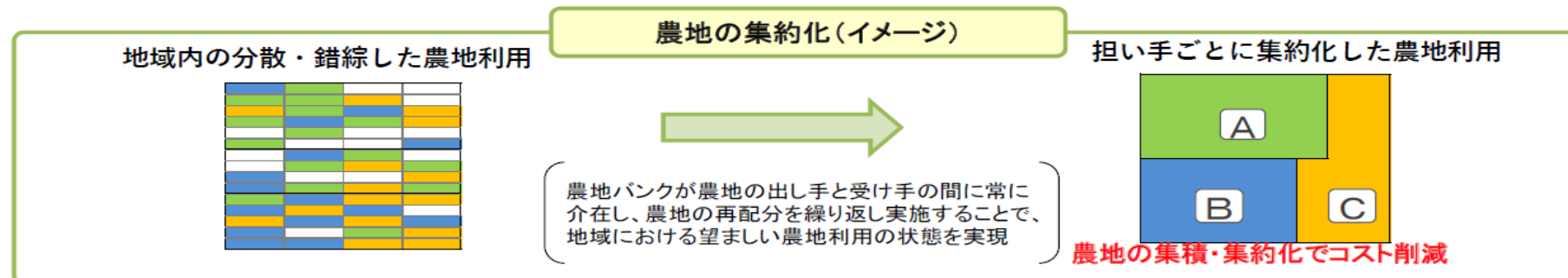
農業委員及び農地利用最適化推進委員が行う農地の出し手の掘り起こし活動、地域の話し合い活動など、農地利用の最適化に資する活動を支援。

【最終アウトカム：令和5年度までに担い手への集積率8割】

②農地中間管理機構による集積・集約化活動

地域内の分散・錯綜する農地を借り受け、担い手にまとまりのある形で貸し付ける農地中間管理機構の取組等を支援。

【アウトカム：令和5年度までに担い手への集積率8割】



①農地利用最適化交付金

アクティビティ
アウトプット
初期アウトカム
最終アウトカム
ポイント

農業委員及び農地利用最適化推進委員が行った最適化活動に対する報酬の財源として、交付金を交付する。	
活動目標	活動指標
全ての農業委員会で本交付金を活用して農地利用の最適化のための一定の活動に取り組む。	改正農業委員会法に基づき新制度に移行した農業委員会のうち、本交付金を活用して農地利用の最適化のための一定の活動に取り組んだ農業委員会数
定量的な成果目標	成果指標
人・農地プランの実質化に向けた取組を行っている市町村において、本交付金を活用した全ての農業委員会が、担い手への農地集積等の活動に取り組む。	既に人・農地プランを実質化した、又は、プランの実質化に向け、工程表を作成した市町村において、本交付金を活用した農業委員会（R3:1,027委員会）のうち、プランに位置付けられた担い手への農地集積等の活動を行った農業委員会（R3:635委員会）の割合
定量的な成果目標	成果指標
令和5年度までに担い手に全農地面積の8割を集積する。	担い手が利用する農地面積の割合
農地の集積・集約化により、生産コストや労働力の低減を達成することで、効率的かつ安定的な農業経営を確立し、農業の成長産業化を実現する。	

令和3年度の全農業委員会数は、1,702委員会。
分母の設定は妥当か。

6割にとどまるボトルネックは何か。

R3実績	62%
R3目標	100%
R3実績	58.9%
R3目標	73.7%
最終目標	80%

②農地中間管理機構による集積・集約活動

アクティビティ

- ・農地中間管理機構が農地集積・集約化を推進する取組を支援。
- ・農地中間管理機構に対し、まとまった農地の貸付けを行った地域等に対して協力金を交付。
- ・農業委員会等が行う遊休農地所有者への意思確認や農地等の出し手・受け手の意向等の効率的な把握等を行うための体制整備を支援。
- ・全国農業会議所が行う農地情報公開システムの改修・維持管理等を支援。

アクティビティの性質に応じて効果の発現経路を整理する必要はないか。

活動目標

活動指標

令和5年度までに担い手に全農地面積の8割を集積する。

農地中間管理機構が担い手への農地集積・集約化を行うための借入面積

R3実績 4.9万ha

R3目標 15万ha

アウトプット

定量的な成果目標

成果指標

令和5年度までに担い手に全農地面積の8割を集積する。

担い手が利用する農地面積の割合

R3実績 58.9%

R3目標 73.7%

最終目標 80%

アウトカム

主な論点

論点 1 :

農地の集積・集約の意図、農業・農地の「目指すべき姿」とは何か

論点 2 :

「目指すべき姿」に向けた課題・ボトルネックは何か

論点 3 :

アウトカムは事業効果を測るものとして適切なものとなっているか